

二松學舎 松苓會報



CONTENTS

- P2 卒業生の皆さんへ
松苓会長・二松學舎大学学長
- P3 二松學舎松苓会会則
- P5 二松學舎松苓会役員・支部長名簿
- P6 松苓会副会長に就任して
幹事長に就任して
- P7 神奈川県教員の会開催
- P8 二松學舎創立135周年事業について
三島中洲誕生地碑紹介
- P9 卒業生の紹介
- P10 大学時代
東日本大震災見舞金贈与式
- P11 松苓会各支部総会報告
群馬県支部、神奈川県支部
- P12 近畿連絡協議会
訃報
編集後記

No.46

2012年3月19日



二松學舎大学
学長 渡辺 和則



二松學舎松苓会
会長 神津 賢一郎

平成23年度 卒業生のみなさんへ

二松學舎大学の卒業式は毎年牛ヶ淵の桜舞を見下ろす九段会館で挙行されてきましたが、昨年の東日本大震災により、実施出来なくなりました。けれど千鳥ヶ淵の桜は季節めぐり、春になると希望の旅立ちを祝

二松學舎大学は本年を以て創設135周年を迎えます。本学の精神的な源流は明治10年10月10日に学祖三島中洲先生によって設立された「漢学塾二松學舎」に遡ります。当時は、福沢諭吉の「慶應義塾」、中村正直の「同人社」と共に都下の

福するかのように美しい桜舞を見せます。

学部学位記を授与された卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございませう。東日本大震災は円高と重なり、日本経済に計り知れない大きな影響を及ぼしました。このような厳しい社会状況や経済情勢の中、卒業される皆さんはもとより、ご父母の皆さんにとりましては大変なご苦労を強いられましたと思います。そしてここによくやく卒業に至ったことは、誠に大きな喜びであると思います。

二松學舎大学の卒業生で組織している同窓会名の二松學舎松苓会を代表して衷心よりお祝い申し上げます。

三大塾と称されたということですが、明治以来今日に至る間、各界に涉って有用な人材を輩出してきました。二松學舎大学にはこの伝統の蓄積があります。本学が今後も発展していくには、伝統の蓄積を、私たちが継承し、学び、さらに次世代に伝えていく努力が必要です。

私が学長として皆さんに伝えたいことは、漢学の碩学、那智佐伝先生のことです。先生は、明治23年に二松學舎に入学され、以来、昭和44年に亡くなるまでの80年に亘り、陽明学の道統を継ぎ、本学の教育研究において大きな足跡を残された伝説上の人物です。また、その間、二松學舎専門学校の校長、二松學舎大学の学長などを努められました。

す。

卒業された皆さんは二松學舎松苓会の会員です。卒業生の皆様を迎える多くの仲間が増えることは大変嬉しいことです。心より歓迎申しあげます。松苓会は会員相互の励ましと連帯を促していく活動と共に、母校二松學舎大学の発展に寄与するという重要な役割を担っております。

松苓会が組織されてより、81年目になりますが、この間の卒業生は全国各地で教育界はもとより、様々な分野で活躍して母校二松學舎大学を支えています。

卒業生の皆さん、どうか伝統ある二松學舎に学んだことを誇りに各分

那智先生は「自慊」（じけん）の二字を目標とし、克治修省に努めてきたと言ひ、学生に対しても「自慊」について、次のように説いておられます。

「『自慊』とは、総ての行動は義理に合致し、反省は率直に、そしてその生活態度を『快し』とする、という精神に他ならない。これからの社会生活の中で、自己の良心良知に従って自己を欺かず、善に就き悪を去り、自ら慊（こころよ）く行動されたならば、何の憂懼（ゆうく）するところなく勇往邁進し、穩当安楽の境地に到り、志を得、従って身体も健康を加えられることかと考えるのである」

「自慊」、「自ら慊く」という言葉

野でご活躍下さい。

そして、全国都道府県に松苓会支部があります。その支部の活動、集い等には是非参加して下さい。年齢も経歴も異なりますが、同じ学び舎で学んだ後輩に親近感があります。そこで親睦と交流を深めて欲しいと思います。

松苓会からのご案内

- 松苓会定期総会
平成24年6月16日（土）
- ホームカミングデー
平成24年11月3日（土）

の意味をじっくり噛み締めてみてください。私たちは、これが正しいという信念にとらわれず、心がそちらへ偏向し、「正しい」という固執のために逆に、冷静に大局的な判断をする視点を忘れてしまいます。那智先生の言葉は、グローバルな競争時代を生きる私たちにあって、警鐘の意味さえ含んでいるように思われます。

二松學舎大学は歴史と伝統の蓄積のある大学です。皆さんは二松學舎大学で学んだことを誇りに思い、自信を持って、生きていってほしいと思います。皆さんのご活躍をお祈りしております。

二松學舎松苓会会則

(昭和6年3月3日制定)

(平成10年5月16日一部改正)

(平成17年8月6日一部改正)

(平成20年8月2日一部改正)

(平成22年6月12日一部改正)

(平成23年6月11日一部改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 この同窓会は、二松學舎松苓会（以下「本会」という）という。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区三番町6番地16二松學舎大学内に置く。

(目的)

第3条 本会は、母校建学の精神に基づき、会員相互の親睦を図り、思想学術の向上に資し、併せて母校の発展を期することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の各号の事業を行う。

- 一 会員名簿の編集及び刊行。
 - 二 会員相互の連絡及び情報交換。
 - 三 支部の育成。
 - 四 松苓会報の発行。
 - 五 その他、本会の目的達成のために必要な事業。
- 2 本会は、母校への支援並びに、母校事業の得失に関し、意見を具申することができる。

第2章 組織

(会員)

第5条 本会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 正会員 専門学校・大学卒業生並びに大学院修了者。
- 二 準会員 中途退学者のうち会員が推薦し、幹事会で承認した者。
- 三 特別会員 本学の専任教職員及び母校関係者にして、会長の推薦した者。

2 会員は、一定額の入会金、会費を納入するものとする。

3 入会金、会費の額については次のとおりとする。

(ア) 入会金は、大学卒業生並びに大学院修了者は5,000円とする。

(イ) 会費は15,000円とし、入会金と合わせて、これを終身会費とする。

4 入会金及び会費の額を変更するときは、幹事会の議を経て、総会の承認を得なければならない。

(本部)

第6条 本会に本部を置き、役員及び事務局をもって組織する。

2 本部は、本会の事務を総括処理し、渉外事項を掌る。

(支部)

第7条 本会は、都道府県毎並びに海外に支部を置くことができる。

2 都道府県毎並びに海外の支部は、それぞれの都道府県並びに海外に在住する会員をもって構成する。

3 都道府県毎並びに海外の支部に支部長を置き、その組織及び運営は各支部の定めるところによる。

4 設置された支部は、規約とともに役員名簿等を添えて会長に提出するものとする。

第3章 役員及び顧問並びに相談役

(役員)

第8条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|--------|-----|
| 一 会長 | 1名 |
| 二 副会長 | 2名 |
| 三 常任幹事 | 若干名 |
| 四 幹事 | 若干名 |
| 五 監事 | 2名 |

(役員を選出)

第9条 会長は、正会員のなかから幹事会において選出し、総会の承認を得るものとする。

2 副会長は、第5条第1項各号に規定する会員のなかから幹事会において選出する。

3 常任幹事は、第5条第1項各号に規定する会員のなかから会長が委嘱する。

4 幹事は、(ア) 国内9地区(北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州及び沖縄)それぞれの代表者。

(イ) 第5条第1項各号に規定する会員のなかから会長の指名した者。

5 幹事長は、常任幹事のなかから会長が指名する。

6 監事は、第5条第1項各号に規定する会員のなかから幹事会において選出し、総会の承認を得るものとする。

(役員職務)

第10条 会長は、本会の業務を総理し、本会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは会長が予め指名した順序によりその職務を代行する。

3 常任幹事は、第8条四号を除く各号の役員をもって常任幹事会を構成し、本会の業務を執行する。

4 幹事は、第8条各号に掲げる役員をもって幹事会を構成し、常任幹事会よりの提案事項につき協議する。

5 幹事長は、総会・常任幹事会から委任された事項及び緊急事項並びに業務を処理する。

6 監事は、本会の経理の状況を監査するとともに、業務執行の状況を監査し、経理の状況、又は業務の執行について不整の事実を発見したとき、これを会長に報告する。

(役員任期)

第11条 本会の役員任期は4年とし再任を妨げない。但し会長の任期は2期8年までとする。

2 補欠、又は増員により選出された役員任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 役員はその任期満了後も後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

(顧問・相談役並びに名誉会長)

第12条 本会の顧問並びに相談役は、法人の理事長・学長・常任理事並びに学識経験者とし、会長が委嘱する。

2 名誉会長は、会長として松苓会発展のために尽力した者を、会長が推挙する。

(顧問並びに相談役の職務)

第13条 顧問並びに相談役は、会長の要請により本会の運営について助言を行う。

第4章 会議

(総会)

第14条 本会の総会は、本会の目的達成に必要な事項を決定する最高議決機関とする。

2 総会は、第17条の規定による支部長会をもってし、毎年1回会長が招集する。

3 総会の議長は、出席会員のなかから選出する。
(常任幹事会)

第15条 常任幹事会は、定例会とし、毎年4回(4月・6月・10月・12月)幹事長が招集する。但し、会長が必要と認めるときは、臨時に招集することができる。

2 常任幹事会の議長は幹事長が当たる。
(幹事会)

第16条 幹事会は、会長が必要と認めた場合に招集し、幹事長が議長となる。
(支部長会)

第17条 支部長会は、支部長並びに第8条各号に規定する役員をもって構成し、会長が招集する。

2 支部長会の議長は、支部長会において選出する。
(定足数及び議決)

第18条 本会の会議は、構成委員の過半数(委任状を含む)をもって成立し、出席者の過半数(委任状を含む)をもって議決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

(議事録)

第19条 本会が行う会議については議事録を作成し、議長及び出席者の代表2名が署名押印のうえ保存する。

- 一 会議の日時及び場所。
- 二 出席者の氏名(委任状提出者を含む)。
- 三 議事の経過、概要、発言要旨及びその結果。

第5章 会計

(会計)

第20条 本会の運営は、次の収入により行うものとする。

- 一 会員の入会金。
- 二 会員の会費。
- 三 寄附金。
- 四 その他物品等の資産。

(会計年度)

第21条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第22条 本会の事業計画及びこれに伴う収支予算は、会長のもとに編成し、常任幹事会の提案に基づき、総会の承認を得るものとする。

(終身会員積立金)

第23条 本会の終身会員積立金は、いかなる理由があっても終身会員サービス以外への用途を禁ずる。

(収支決算)

第24条 本会の収支決算は、会長のもとに作成し、事業報告書とともに監事の意見を付し、総会に報告し承認を得るものとする。

第6章 委員会及び委員

(委員会及び委員)

第25条 本会の目的達成のために必要な専門事項を調査及び研究等を行うため、委員会を設けることができる。

なお目的達成後は速やかに解散するものとする。

- 2 委員会の委員は会長が委嘱する。
- 3 委員会及び委員に関し必要な事項は、その都度会長が定める。
- 4 役員候補者選考委員会の委員は別に定める。

第7章 事務局

(事務局)

第26条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

- 2 幹事長は、会長の命を受けて事務局を統括し本会の事務を掌理する。

3 事務局には、会長指名の事務局長、その他の職員をおく。

4 事務局長は、幹事長を補佐し本会の事務処理を執り行う。

5 職員の任免は、常任幹事会の議を経て会長が執り行う。

6 事務局に必要な規定は別に定める。

第8章 会則の変更

(会則の変更)

第27条 本会則の変更については、常任幹事会提案に基づき、総会において承認を得なければならない。

第9章 補則

(会員の除名と役員の解任)

第28条 本会員で、その体面を汚す行為があった場合は、総会の決議により除名することができる。

2 本会の役員が、次の各号の一に該当するときは、第25条第1・2・3項に準じて特別審議会を設け、その議決により会長がその職務を解くことができる。

- 一 心身の故障のため職務の執行にたえられないと認められたとき。
- 二 職務上の義務違反、その他役員としてふさわしくない行為があると認められたとき。

(細則)

第29条 この会則に定めるもののほか、運営に関し必要な事項は細則で定める。

附則(昭和6年3月3日 原案立案)

1 昭和6年3月22日 認可

附則(昭和7年6月14日 修正案立案)

2 昭和7年7月3日 認可

附則(昭和32年6月1日)

3 本会則は、昭和32年4月1日より施行する。

附則(昭和42年6月1日)

4 本会則は、昭和42年4月1日より施行する。

附則(昭和58年6月1日)

5 本会則は、昭和58年6月1日一部改正し施行する。

附則(平成3年10月26日)

6 本会則は、平成3年10月26日から施行する。

附則(平成6年7月23日全部改正)

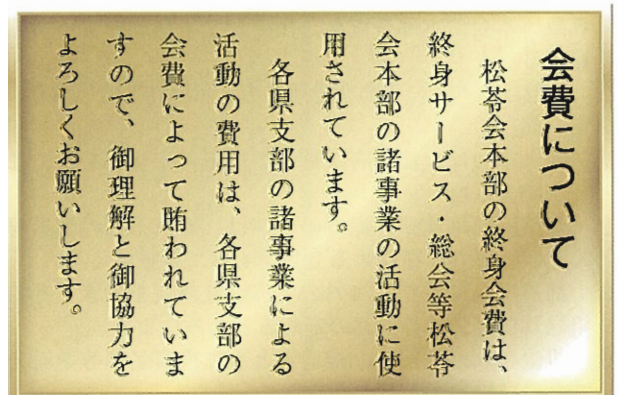
7 本会則は、平成7年4月1日から施行する。

附則(平成10年5月16日)

8 本会則は、平成10年5月16日から施行する。ただし第5条の会費は、平成11年度入学生から適用する。

附則(平成17年8月6日)

9 第26条第2項に規定する本会の事務については、その一部を学校法人二松學舎に委託することができるものとする。



松苓会支部長名簿

平成24年1月1日現在

支 部	氏 名	卒回
北海道	増井 義昭	39
青森	江刺家 均	40
岩手	宮本 義孝	32
宮城	千葉 仁	27
秋田	三浦 基	41
山形	齋藤 裕	38
福島	北村 博	32
茨城	那花 隼	36
栃木	寺内 進	49
群馬	馬井 喜義	37
埼玉	玉田 哲夫	42
千葉	葉辻 和一	45
東京	井上 男	42
神奈川	川平 野光	40
山梨	梨植 永雄	31
長野	野関 保典	35
新潟	潟坂 井福	42
富山	山小 島貴	47
石川	川井 菅野	50
福井	中道 内佳	58
岐阜	岐阜 永井	55
静岡	岡永 海	38
愛知	知重 新	30
三重	滋賀 角	33
京都	都廣 浅田	49
大阪	阪武 昭	54
兵庫	庫内 昭	39
奈良	良辻 利	47
和歌山	歌取 小治	47
鳥取	根小 江章	38
岡山	山江 正	39
広島	島山 才二	39
山口	口平 賢	26
徳島	島大 倉明	40
香川	川大 西邦	47
愛媛	媛大 上善	40
高知	知坂 本善	38
福岡	岡永 淵和	37
佐賀	賀吉 原道	36
長崎	崎黒 瀬一	39
熊本	本塩 永孝	38
大分	宮加 宮英	52
宮崎	崎宮 崎宣	36
鹿児島	児島 岡元	41
沖縄	沖繩 金城	31
		38

松苓会役員名簿

平成24年1月1日現在

氏 名	卒回	
顧問 佐古 純一郎	11	
〃 佐佐木 鍾三郎	15	
〃 雨海 博洋	19	
〃 末吉 榮三	12	
相談役 水戸 英則		
〃 渡辺 和則		
本部役員 (14名) 事務局 (1名)		
会長 神津 賢一郎	27	
副会長 大地 武雄	院博10	
〃 廣田 克己	38	
幹事 長 神河 秀春	47	
監事 奥井 基繼	院修14	
〃 磯水 絵仁	41	
常任幹事 千葉 喜義	27	
〃 新井 喜茂	37	
〃 手島 茂樹	特	
〃 小林 憲二	38	
〃 佐藤 修	41	
〃 井上 和男	42	
〃 小町 邦明	49	
〃 助川 弘	政3	
事務局長 畠山 幸治	37	
幹事 (17名)		
北海道 北海道 山崎 郁 紀裕	36	
北 山形 齋藤 紀裕	38	
東 茨城 那花 隼	36	
関 北東 武内 昭	47	
近畿 畿兵 庫口 俵	昭賢 嗣美	40
中 国 山 川 大西 賢邦 美忍	40	
四 国 香 川 大加 茂	忍 一	36
九 州 沖 大 分 金 城 健	哲幸 一世	38
沖 茨 城 芹 川 村	幸 男	37
	五十嵐 清	44
	玉京 柳 幸	49
	東京 高 齋 藤 幸祐	51
	東 茨 城 西 園 隆	59
	茨 千 葉 志 村 西	59
	埼 玉 小 鶴 明砂	60
	沖 繩 鶴 田 砂	政5

松苓会副会長に就任して



副会長 廣田 克己

副会長就任について正直な気持ちを言えば「なぜ?」「私でいいの?」というところですね。松苓会では無名の新人ですので、自己紹介を兼ねてご挨拶をさせていただきます。

私は福岡県で生まれ育ち、高校3年次に赴任したばかりの本学出身教員と出会ったのが二松學舎大学に入るきっかけになりました。その先生の言動は田舎の高校生には新鮮で魅

力的に映ったものです。しかし当時は教員を志望していたものの名前さえ知らなかった本学に入学し、知人など全くいない神奈川県で高校教員となり、40年生きるなどとは想像すらできませんでした。大学には世話になっていない、連絡があると寄付金のお願いばかり、卒業生に冷たい、できれば関わりを持ちたくないという気持ちで、大学と松苓会の区別もつかない卒業生でした。

30年近く途絶えていた松苓会に関わり、会員として参加したのは8年ほど前からです。そのきっかけは元神奈川県支部長の剣持武彦先生との

出会いからでした。お人柄溢れる懇切で丁寧なお誘いを断れず、支部活動に参加するようになったことからです。

支部長、常任幹事と経験し、気づいたら副会長ということになりました。今では「大学(松苓会)が何かをしてくれることを期待するのではなく、私が大学(松苓会)に何ができるのか」を考えるようになりました。

「改革の継続と推進」「大学との協調」をスローガンに二期目に入った神津会長を支えることに全力を尽くします。よろしくご指導ください。

以上のことについて取り組んでまいります。

しかしながら、私一人の力など微々たるものです。会長をはじめとして各役員や各支部と連絡をとりあいながら、更には、学内外の卒業生とも協力しながら、松苓会が卒業生全体の拠り処となれるような基礎を築いてまいる所存です。

そのためにも、卒業生の協力は不可欠でございます。

今後の松苓会の発展のためにも、卒業生全員のご協力をお願いしたいと存じます。



副会長 大地 武雄

此の度、本会の副会長に就任し、その責の重さを痛感しております。

本学は今年創立一三五周年を迎えますとともに、松苓会も創設以来八十一周年を迎えます。卒業生会員も二五〇〇一名を擁す由緒ある同窓会です。

これ迄多くの先輩が本会の発展を期して尽力されたことを思うと身の引き締まる思いです。

漢学塾二松學舎、二松學舎専門学校、新制

大学及び大学院と発展した本学をさらに発展させるべく、常に同窓会として何を為すべきかという視点に立って、会員の皆様とともに事に当たってまいりたいと存じます。

在学中から同窓会への理解を深め、卒業と同時に同窓会員として活動する場としての各県の支部活動への参加を促して行きたい。

そして、会員が所属する47都道府県の支部活動を活発にし、会員の所属意識を高め、会員の皆様の松苓会となるよう努力したいと存じます。

今後とも会員一人一人を大切に、会員のための会員に親しまれる同窓会づくりに微力を尽くす覚悟です。

どうぞ、松苓会充実発展の為、御支援御協力を賜りますようお願いいたします。

幹事長に就任して

幹事長 神河 秀春



昨年の10月1日付で幹事長に就任いたしました。本学を昭和54年3月に卒業後そのまま職員

となり、現在キャリアアセンターに所属しています。今年56歳になります。神津会長のもと、清新な息吹で松苓会の改革を進めるために、最も若い幹事長として私が指名されたのだと考えると、身の引き締まる思いです。

幹事長に就任する以前は、本部の幹事、常任幹事として約十年役員を

仰せつかっておりました。その間に感じていたことは、「松苓会に若い人が近づき難い」というものでした。

その雰囲気をごのようには拭ききれぬか。大変に難しいことですが、真摯に取り組んでいきたいと考えています。更に、私の任期中(平成27年3月31日)に次のことの基礎づくりをしたいと考えています。

- 一、会員に開かれた松苓会となるように、皆様からのご意見を伺い、小さなことから改善を進めてまいります。
- 二、松苓会が在学生と卒業生に更に認知されるよう努力いたします。
- 三、在学生が卒業後に各支部に所属して支部活動に参加し、活性化をお手伝いをいたします。

二松學舎大学「神奈川県教員の会」開催

教員の会会長 齊藤 一美 (47回・神奈川県立上溝高等学校長)

二松學舎で学び、神奈川県で教壇に立ってほしい。

このような強い思いをもって、神奈川県内で教育に携わっている公私立の中小高等学校の現職教員が「神奈川県教員の会」を開催しました。

平成23年12月26日(月)、横浜ホテル・キャメロット・ジャパンに約40名の現職教員が集まり、また大学からは渡辺学長をはじめ、江藤文学部長、菅原国際政治経済学部長、小西入試課長、中原入試課長補佐、廣田特任教授、さらに松苓会からは平野神奈川県支部長のご臨席を得ることができました。神奈川県在住や神奈川県に教員として採用名簿に登載された文学部四年生を含む5名の参加もあり、盛会となりました。

冒頭、学長のご挨拶に、今後は神奈川県の高校生にも、多く二松學舎へ進学してほしいというお言葉があり、本会との連携を重視するお話をいただきました。

懇談会では、教員同士、公立私立を問わず情報交換を行うことができ、有意義な時間を過ごしました。また、現役の学部生にとっては、教員の生の声を聞く機会となり、教職に対する思いを強くしてい

ただけたものと確信します。

○神奈川県教員の現状

神奈川県で現職教員として勤務している二松學舎大学の卒業生(平成23年度中判明分、含非常勤、再任用等)は、公立私立を合わせて、高等学校163名、中学校111名、小学校17名の合計291名です。まだまだ不明な部分がありますので、この数は増えるものと思われ

ます。二松學舎の卒業生は国文学にも漢文学にも精通していて学問的な幅の広さを有し、また、書の能力や、能・狂言などの芸術的視野がある。これが教育界における揺るぎない評価です。

近年まで、県内の児童・生徒数の減少により教員採用がほとんどありませんでしたが、団塊の世代の定年等によって再び新たな人材が必要となってきました。

○九段集約と神奈川県

二松學舎大学の千葉県沼南への1・2年生移転により、

神奈川県が生徒で、高等学校卒業後二松學舎を受験する者は激減していました。

遠距離通学や下宿させられないほどの家庭の経済的悪化、夢を描いていても教員への道が途絶えている状況、また国語総合や表現に代表されるように、古文・漢文が必修で独立科目になっていた時代と違い、教科「国語」の内容の簡略化によって国漢への学問的興味が深まりにくい学習の現状等、そこにはさまざまな要因が考えられます。

しかしながら、平成24年度から1・2年生が九段校舎で受講可能になったことは、地理的条件の大きな改善であり、神奈川県の高校生とその家庭にとって朗報ということができます。

神奈川県における二松學舎大学の存在、これを教育界において高めるのは私たち卒業生の教員の役割の一つであるとも思います。

○本会の趣旨

本会には、まだ正式な規約などはありません。詳細については、参加者の意見を集約しながら、今後、原案を作成

していくこととなります。現在の時点で考えられる中心的な活動内容は、次のとおりです。

- ・ 母校二松學舎大学の発展に寄与すること
- ・ 神奈川県に携わる二松學舎大学出身の現任の教員の連携を深め、教育研究等によって神奈川県教育の一層の発展に寄与すること
- ・ 二松學舎大学出身者や在学生の県内教育界での活躍に寄与すること
- ・ 松苓会神奈川県支部との連携によって同窓生の絆を再構築すること

以上です。このたび、特に文学部が全国の教育界に再び打って出ようという方針を立てていることは、後輩を迎え入れようと考え、本会と意を同じくするものです。菅原学部長は、将来的には国際政治経済学部出身者から教員を出したいと夢を語っていらつしやいました。

「教育界に二松學舎あり」この事実を途絶えさせることがないように、本会の活動を今後盛り上げていきたいと思

創立135周年記念事業 常任理事 小林 公雄

本学は、明治10年10月10日に先師中洲三島毅が「漢学塾二松學舎」を創設して本年は135周年目に当たる。これを記念して学校法人では、創立135周年記念事業準備委員会を設置し、その準備に当たっている。

記念事業としては、10月10日に記念式典、記念講演会（講師未定）、祝賀会を開催し、併せて名誉学位授与や功労者表彰などの顕彰事業も行う。さらに、次のような企画を実施する。

地方での学術文化講演会の開催や文学部、国際政治経済学部で記念シンポジウムを、また本学所蔵の横溝正史資料の公開、文学部の『鎌倉文学散歩』（仮称）、国際政治経済学部『都心で学ぼう 国際政治経済』（仮称）などの刊行を予定している。さらに新聞社が企画する書道関係特別展への協賛、学生の参加を計画している。また、学生の奨学支援の一環として経済的困窮学生への授業料減免制度創設を検討している。

なお、創立者三島中洲は、天保元年（1830）12月9日に生まれ、大正8年（1919）5月12日に逝去（満90歳）されている。本年は生誕182年、没後93年にあたる。学校法人では、中洲忌にあたる5月12日に墓参を計画する。

創立135周年記念式典では、

『21世紀の二松學舎像』（長期ビジョン）を発表する予定で、現在、ビジョン策定に向けた検討が始まっている。本学の構成員全て（役員、評議員、教職員、学生、父母、卒業生等）の意見を反映させ、10年後、20年後の本学の姿を想定した長期ビジョンを策定し、全学の共通目標として総力を結集し、目標実現に向けた歩みをスタートさせたい。

この「長期ビジョン」策定の取り組みは、文部科学省の平成23年度私立大学等経常費補助金の特別補助「未来経営戦略推進経費」に採択されている。

平成19年以来、「二松學舎教育研究振興資金」の募集を行ってきたが、135周年記念募金を実施する。平成19年の創立130年以降に、大学九段校舎3号館の建設、九段1号館の改修、附属柏中学・高等学校新体育館の建設などを実施してきた。135周年記念事業では、大型建築工事等は、予定されていないが、平成25年に九段完全集約を迎える大学、2年目に入る附属柏中学校、更に両附属高校の教育環境の整備充実を図ることが必要であり、特に今回は学生生徒の奨学支援事業の充実化にも重点を置いて募金活動を行うので、卒業生の皆様にはご理解、ご協力をお願いしたい。

三島中洲 誕生地碑の紹介 松苓会常任幹事 小林 憲二

本学創立者三島中洲は、天保元年（1830）12月9日、備中国窪屋郡中島村（後の中洲町）の里生（庄屋）の家に生まれた。現在の岡山県倉敷市中島西向町である。今日、生家は取り壊されていないが、生家跡の一角に、大学による、誕生地碑が建立されている。

碑には「一代儒宗帝王之師」の篆額と、二松學舎名譽学長山田準の撰による、千四百四十三字からなる碑文が刻まれている。

碑は、花崗岩の自然石の台座（高さ八十七センチ）の上に、幅一・二メートル、高さ二・二メートルの庵治石であり、碑のわきには、二本の松が植えられている。

誕生地碑除幕式は、昭和59年4月27日、二松學舎、三島家、倉敷市関係者、漢学愛好家ら多数が参集して行われた。

山田準撰の碑文には「先生諱は毅、字は遠叔、通稱は貞一郎、初めは桐南と號す、後に中洲。三島氏、備中の南、邑有り中島と曰ふ。今中洲と稱するは、實に先生の郷なり・・・」とある。

誕生地碑建立の経緯については、中洲の兄舒（のぶ）太郎のひ孫に当たる三島甫氏が、管理

していた中洲の生家を、大学に寄贈したいとの申し出があり、大学ではこれを修復して県か市の重要文化財として残して頂くよう、当局に働きかけたが、結局は取り壊されることとなり、大学では整地された生家の一角を買い取り、誕生地碑を建てて、倉敷市に寄贈し、管理を依頼したものである。

三島甫氏は、「碑のある位置は生家の表玄関に位置、門の前には、立派な赤松と黒松二本があり、子供のころに生家を離れた中洲になつかしがられ、創設した大学の名称にも使われた。号の中洲も、地元の中洲村からとったもの。国を愛し、学問を愛した精神が地元の若者に継がれていくことを希望します」と、中洲誕生地碑の除幕式を報じた、地元「倉敷新聞」に述べている。



卒業生の紹介



国際政治経済学部 国際政治経済学科卒業
田中 康貴 (政経15回)
(株)エクセル 第二営業本部 東京南支店

私は、入社して3年目になりますが、約2年間は本社で販売推進を行い、昨年の11月から東京南支店で営業を行っております。

販売推進と営業の違いですが、販売推進は新規商材の売り込みや支店及び営業所の販売支援、マーケティングが主な業務になります。営業は売り込みから納期調整、在庫確認、代金回収まで一連の業務を行います。

業務に関しては、販売推進と営業とで違いはありますが、共通していることは、仕入れ先とお客様との間を取り持ち、双方が満足できるように橋渡しをすることです。お客様が必要としているものや、困っていることを聞き出し、仕入れ先にお客様から聞いたことをよりわかりやすく伝え、物作りのきっかけをつくるのが私たち商社の役割だと考えています。

私たちは物をつくっているのではなく、人対人のやり取りが殆どです。ですから、信頼関係を築くことが重要になります。簡単なことではありませんが、誠意を持って日々、対応することで少しずつ築くことができると思っています。

文学部 中国文学科卒業
大和 亜希子 (文75回)
(株)三井住友銀行 コンシューマーサービス職



大学生生活の日々で得た出会いや経験、喜怒哀楽すべてが私にとってかけがえのない財産です。

生方や先輩方、一緒に取り組む仲間がいてくれたことで多くを学び、ひとつずつ作品を仕上げる事で「書道」の新たな魅力を知ることができました。

つかけで真剣に将来と向き合うようになりました。大学生生活や就職活動を通して、企業で働くことへ関心をもち「教員のように一人とより長い縁を持てる仕事に就きたい」と思うようになったのです。

みは何と言っても人間性豊かなところ。喜ぶ人と共に喜び泣く者と共に泣くことができる人と言っても良いかな」

小さい頃に「習字」を始め、将来は「学校の先生」になりたいと思っていた私は、縁に恵まれ二松學舎へと進学することができました。

入学当時は周りとのレベル差から挫折を感じる事もありました。けれど、知識・経験豊富な諸先生

私は今、銀行の中でお客さまのライフプランやマネープランのご相談にあたるコンサルティング業務を行っています。近年、銀行では様々な相談ができるようになり、扱う分野も広がってきました。そのため、様々な職業、幅広い年齢の方とお会いできるのも特徴です。

最近、上司からいただいた有り難い言葉があります。「大和さんの強い言葉があります。」「大和さんの強



東京・浅草裏の南千住の安アパートに、奥村悠二郎君（コンサルタント・前北海道支部長）と、加茂忍君（書道家・大分県支部長）、それに私の三人で、とぐろを巻いていた。北海道・帯広からの奥村君、室蘭からの加茂君、九州・福岡からの私は、共同自炊の夕食後、箸でちゃぶ台をたたいて調子をとり、当時流行っていた、バーブ佐竹の「骨まで愛して」、小林旭の「北帰行」などを、よく歌ったものである。——そして想うに南千住の、このアパートは、多くの同期が集う、まさに、二松の梁山泊でもあった。

奥村君は高校野球の甲子園地区予選で、相手チームの好投手に阻まれ出塁出来ないのに、業を煮やし、連続デッドボールで出塁するなど、武勇伝伝説の持ち主だった。その人間の魅力に、我々のアパートに多士済々の同期が集まり、出入りした。加えて、金子清超先生の愛弟子・加茂君は鬼才を放つ人物だった。気が向くと寝ている我々にお構いなく、夜中に硯を摺り、広げた紙に黙々と筆を走らせていた。この彼の才気あふれる魅力もあわせて、本当に我々のアパートは集いの場だった。

走馬灯のように脳裏にうかぶのは麻雀騒動である。覚えたてであったが、アパートで四人が、卓を囲み牌をいじくりまわしていた。三年時だったか、四年時だったか、今は季節

さえも定かでない。奥村君に私、それに那花隼君（仏師・茨城県支部長）だったが、加茂君ではないし、あと一人をどうも思い出せない。そこへ我らの兄貴株の大山徳高君（前二松學舎理事長）が乗り込んで来て、どなりつけられたのである。

「おい、お前たちは何やってるんだ。学校を一週間、四人そろってサボってるから、もしやと思つたらやっぱりだ。だから、お前たちに麻雀を教えたくなかったんだ」と叱責された。

賭けの対象はマッチ棒であったが、

大学時代

人間を学ぶ——二松・梁山泊の記

福岡県支部長 永淵 道彦

どである。それ以来、麻雀はこりごりである。アパートの白い壁が黄色く見えたのを、今も鮮明に覚えている。

止め男の大山君だが、理事長時代のあの紳士然とした風貌に反してなかなかのものであった。麻雀どころか、仕送り三倍増だと言つて、後楽園に連れていって、我々に、場外馬券買いを教えたのも彼だった。みんな若かったが、この二松・梁山泊は学校には無い、人間を学ぶ場だった。

那花君たるや、マッチ棒の麻雀だ

覚えたてでもあり、面白さもあり、大負けしたメンパーが続けると言い、六日ほど、くたくたになりながら、何とぶっ続けだったのである。五時間ほど二度、寝た記憶がある。負け込んでいる奴が、むっくり起き上がり、やるゾーと続けることになり、実にエンドレスであった。ゲームを途中、休んだのは、何度か出前のラーメンを食べた時ぐらいと記憶する。

大山君が嗅ぎつけて乗り込んで、デッドヒートのゲームはジ・エンドになったわけだが、あんなに苦しかったことはない。死ぬかと思つたほ

と、ころころ負けるのに、お金がからむと豹変する。絶対に負けないのだ。上野・池之端の松坂屋別館に、お歳暮発送のアルバイトに行った折りのこと、彼は、その小父さん職員たちと花札ゲームをしたことがある。結果が分かっているので、我々は小父さんたちに同情した。案の定、彼に、大量の食券を巻き上げられていた。

世話好きで好人物の奥村君であったが、あの高い所から飛び下りられるか、この腐ったものを食べるか食べないか、なんて賭けを彼と絶対してはいけないというのは、仲間内の

常識だった。彼が負けることがないからである。死を決してもやつてのける伝説の所持者であったからだ。人間は見かけではないのである。

肩書きでもない。人間そのものを見るべし！ この二松・梁山泊の集いで、鍛えられ学ばされたことであつた。この仲間の一人、狩野正美君（元埼玉県立高校教諭）から、先日、懐かしい便りももらった。空手部（現跡道部）の同期でもある。彼とは久しく会っていない。狩野君のみならず、みんなと会って、あの頃の思いを又、共にしたいものである。

——思い出は尽きないが紙幅もあり、筆をおき、又の機会としたい。（筑紫女学園大学教授）

見舞金贈与式

東日本大震災で被災した本学学生17名に対するお見舞金の贈与式を、2月14日に九段校舎にて渡辺学長にご臨席いただき行つた。

当日は、神津会長より、今回のお見舞金は、卒業生組織である松峇会の各支部からの寄付であることを説明し、一人一人にお見舞金を渡すことができた。17名の学生が、今後も学業に専心することを祈るばかりである。

松苓会各支部總會報告

平成23年10月～24年2月

群馬県支部

平成24年1月21日
支部長 新井 喜義

1月21日(土)、平成24年度の総会・新年会が前橋市富士見町の富士見温泉ふれあい館で行われました。群馬では、毎年、会員が参加し易いように県内を中毛・西毛・東毛の三地区に分けて会場を変えて行っています。

参加者は会員16名。大学からは源川先生にお出でいただきました。

今年、例年と違うところは、源川先生の講演を会員だけでなく一般の方々にも聞いていただいたことです。時間的にあまり余裕がなかったので地方新聞に講演の案内記事をお願いして載せてもらい、あとは支部役員の口コミでした。会場の関係で50名に限定しましたがその中で40名が集まったのは初めての試みとしてはよかったです。

講演の演題は「王羲之の薬師としての一面」でしたが、

一般の方からの感想で、「書家としての王羲之は知っているが薬の方面の先生であったというのは大変興味

あることでした」と。その後、揮毫を行い、希望者に色紙を持ち帰ってもらいました。

一般の方々にも、先生の話を聞いてもらうという試みは、二松學舎を知ってもらうためにも継続してやっていきたいと考えています。

また、その後行われた新年会では、若い人の参加もあったからか、一分間スピーチや新しい支部活動に向けての話もあり、和気あいあいのうちに終了しました。

なお、講演会では、聴講料を三百円いただきましたが、それはすべて東日本震災の義援金として日本赤十字社群馬県支部を通して被災地に送ってもらいました。

神奈川県支部

平成23年10月23日
副支部長 中川 俊一郎

文学歴史探訪

横浜山手地区異人館めぐり

平成23年10月23日(日)曇り空のもと、参加者13名がJR桜木町駅前に10時に集合し、市営バスのあかいくつ号(ボランティアガイド添乗)に乗り、探訪が始まった。

日本の文明開化の地であるこの横浜の現在は、「みなとみらい地区」と呼ばれている地区や明治時代初期の港の一部であった「象の鼻」(埠頭)・「赤レンガ倉庫」を一巡しな

がらバスは進み、「三塔」と呼ばれる開港記念会館や神奈川県庁、横浜税関

の建物の横を通りながらボランティアの説明を聞きました。やがて港の見える丘公園でバスを下車し、綺麗に咲き誇っているバラ園の中を通りながら大佛次郎記念館に入館しました。

そこで、横浜ゆかりの作家「大佛次郎」の業績と作品『霧笛』『パリ燃ゆ』『天皇の世紀』『赤穂浪士』などの作品資料などさまざまな資料や展示があり、また猫を愛玩していたことなど作家としての意外な一面を知ることができました。

それから、明治・大正・昭和時代に建築された横浜市内の現存する異人館めぐりに入りました。初めに、開港当時イギリス総領事官邸であったイギリス館、明治時代の唯一現存する木造西洋館である山手資料館、この敷地内には日本最初の獅子頭の水道共同栓なども展示されています。関東大震災によって倒壊したがアメリカ聖公会の援助により昭和22年に修復された山手聖公会堂の前を通り、昭和初期に建設された外国人用共同住宅である山手234番館を見学しました。当時の横浜に居住した外国人の生活の様子を垣間見た思いがしました。

元町公園の敷地内の一角、山手本



横浜ベーリック・ホール前にて

通りに面した緑の木立に包まれて建つ風情のある大正時代に建てられたスイス人貿易商の私邸であったエリスマン邸と、隣に位置する昭和5年に建てられたイギリス人の貿易商の私邸であるベーリック・ホールを見学しました。このベーリック・ホールはセント・ジョゼフインターナショナルスクールの寄宿舎として使用されていた時期があったようです。

山手地区の異人館めぐりをして、時代ごとに生きてきた人々の様々な生活や歴史を感じました。

そして、山手地区から元町商店街を通り横浜の繁華街である「中華街」へと向かいました。中華街を散策しているとそこには北京語・台湾語・ベトナム語・英語・フランス語・スペイン語等様々な国の言葉が飛び交い、現在の横浜が開港当時の賑わい以上のものであろうと思いました。その後、中華街「牡丹園」にて参加者一同で親交を深めました。

賀詞交歓会

川崎地区長 小林 孝彰

平成24年1月15日(日)、神奈川県支部賀詞交歓会は川崎駅前「煌蘭」で開催されました。

当日午前中有志により、まだ新年



↑前橋市富士見温泉ふれあい館にて



↑川崎駅前「煌蘭」にて

の余韻が残る川崎大師平間寺に参詣を実施、日曜日と重なり又小正月にもあたることで多くの人出で賑わう中、参拝をすませました。

13時来賓、賛助会員を含め11名の参加をいただき小林川崎地区長の開会のことばで始まりました。

支部長、平野光治氏から年頭の祝辞に続き昨年廣田支部長の本部役員就任により支部長を引き継ぐが、日の浅い活動の中、本部とのあいだに温度差を少し感じていく、この先温度差をいくらかでも改善できるように、意見を反映できる支部へと進めていきたいとの挨拶をいただきました。

来賓、本部廣田副会長からも祝辞に続き支部で培った経験を生かし松苓会全体の存在意義と立場を基本に会運営に尽力していく旨のことばをいただきました。

続いて東京支部、木村顧問からも丁寧なご祝辞をいただきました。そして廣田副会長の乾杯発声により歓談に入りました。当日はセンター試験日でもあり、今後少子化による母校の対応や新理事長での運営体制、いつも話題となる母校の知名度アップはと、熱い話題で盛り上がるなか、参加できなかった方たちの葉書にも目を通し、記念撮影後、15時、中川副支部長の閉会のことばで終了しました。

近畿連絡協議会

平成24年2月18日
事務局長 齊藤 衛

数えて63回を積む松苓近畿互礼会平成24年2月18日(土)に開催。

今回は渡辺和則学長先生の「経済と倫理について」の講話を前段に設ける。松苓近畿の創設を提唱された一期の黒川喜久郎氏のご子息も参加されて渡辺講義を相互に究め研鑽を深める。

壬辰新春を賀する互礼会に参じた者渡辺先生を頭に末吉榮三(12)、稲垣武嗣(33)、山田勝久(34)、辻(39)、浦壁健三(44)、世古幸生(44)、明治利隆(47)、斎藤衛(49)、広田康男(54)の10名。

しばらく空席だった京都府支部長に就任了承を得た福知山在住の広田康男氏のご縁があつて支部長の役を

訃報 樵榕殿

(名誉教授・専門学校14回卒)



平成24年1月14日(土)、逝去されました。享年90歳。追悼礼拝は、2月8日(水)、台北市南京東路礼拝堂にて執り行われ、江藤文学部長が参列しました。洪先生は、昭和18年に二松學

務めることになりました。54期卒の若輩ですが、受けたからには頑張りますと力強い挨拶を述べられる。34期の山田勝久氏は大阪教育大名誉教授で甲子園大学副学長の職を辞して、この4月から母校二松學舎大学中国文学科教員に就くことになったとの報告を聞く。

松苓近畿の現勢については昨年7月1日調査の本部発行名簿とその誤差を精査し、総会員数は385名となり、府県内訳は三重県が53名、滋賀県が24名、京都府が36名、大阪府が81名、兵庫県が112名、奈良県が38名、和歌山県が41名との報告があつた。

活動の活性化の一案として近隣府県支部との合同行事の企画が囁かれています。



舎専門学校を卒業され、昭和51年に二松學舎大学客員教授、同54年専任教授として本学に着任されました。また、図書館副館長、陽明学研究所長などを歴任されました。昭和58年から学校法人二松學舎評議会員を務められるなど、本学の教員研究に多大に貢献されました。平成7年3月本学を定年退職。同年4月名誉教授の称号を授与されました。ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

卒業おめでとう。
わが国は今、未曾有の危機の中にある。しかし、危機の時代にこそリーダーが生まれる。我が二松學舎大学もそういう時代の中で創設された。リーダーとは天賦の才ではなく、志にある。志を貫く強さを持ってほしい。
本号では大学、学生、同窓生が一堂に会したイベントを取り上げた。本来あるべき姿がここにある。同様の取り組みを今後も取り上げ続けたい。
諸君の前途に幸多かれと願っている。

表紙写真

手賀沼の南、緑に囲まれた静かな環境。約11,700m²という広々とした柏キャンパスには大学と附属柏中学校・高等学校がある。大学では九段集約が進んでおり、今後の柏キャンパスの有効利用が検討されている。

二松學舎
松苓会報
No.46

創発編集電振替印刷
刊行集所話座刷
昭和62年12月1日
平成24年3月19日
二松學舎松苓会
〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
03-3261-7408
00180-5-160343
(株)サンセイ
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-11-10
TEL 03-5614-2515